

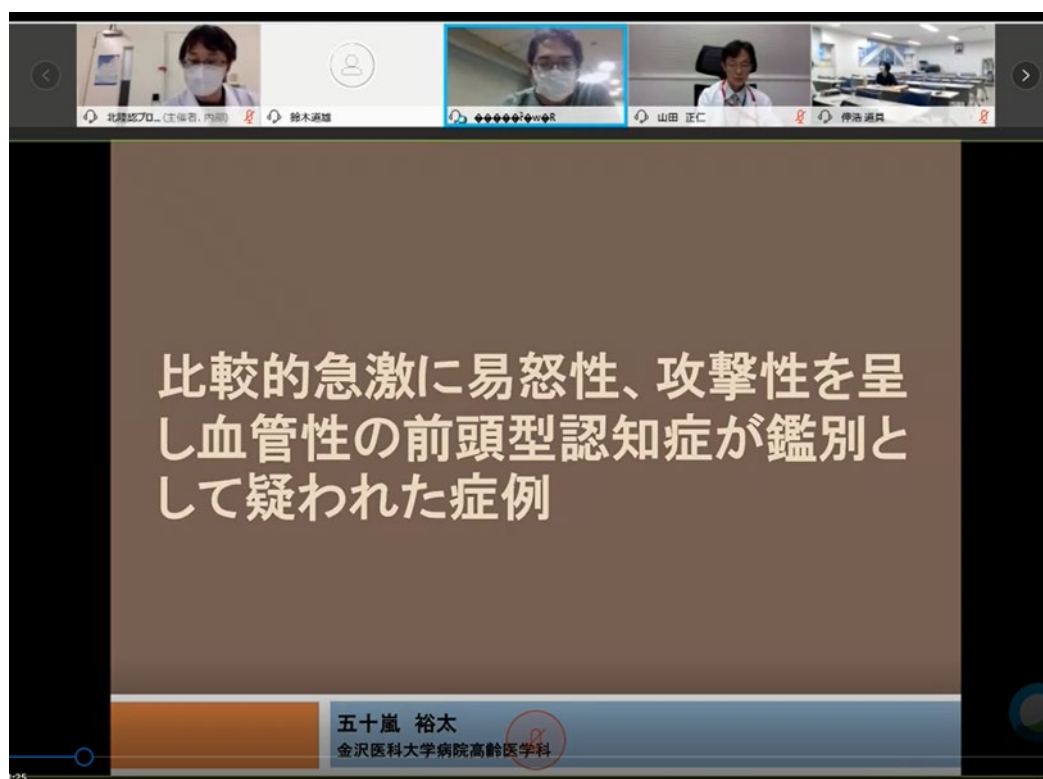
第63回デメンシアカンファレンスを開催

2020年8月3日

8月3日（月）に金沢医科大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第63回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行の拡大を踏まえ、集合形式＋テレビ会議システムによる開催を見合わせ、代わりにデメンシアカンファレンスをWeb上で開催しました。

「比較的急激に易怒性、攻撃性を呈し血管性の前頭型認知症が鑑別として疑われた症例」のタイトルで、金沢医科大学からの症例報告が進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。



症例発表の様子とスライド

第 63 回 デメンシアカンファレンス 報告要旨

『比較的急激に易怒性、攻撃性を呈し血管性の前頭型認知症が鑑別として疑われた症例』

発表者：五十嵐 裕太（金沢医科大学 高齢医学）

司 会：大黒 正志（金沢医科大学 高齢医学）

【要 旨】

症例は 85 歳女性。X 年 6 月に左前頭葉後頭葉の多発脳梗塞、9 月にそれを原因とする症候性てんかんを発症し加療中であった患者。11 月中旬ごろから突然様々なことに対して怒り文句を言うようになった。12 月には鍵が開かないと言って玄関のドアのガラスを叩き壊したり、年金が勝手に下ろされていると言って休業日の日曜日にも関わらず朝から晩まで銀行の前に座り込むなどの行動異常が出現した。その後一旦落ち着いたが再度易怒性が出現し当科に精査目的で入院となった。明らかな神経学的所見は認めなかった。検査への協力が得づらく、MMSE 等の認知機能検査は実施不可能であった。頭部 MRI では左前頭葉腫瘍摘出後の変化と左側頭葉後頭葉の陳旧性脳梗塞を認めた。入院後も易怒性が続き、一切の検査、治療を拒否する状態が続いた。そのため抗てんかん薬として処方されていたレベチラセタムおよびペランパネルを内服しない状態が続いた所、易怒性の改善を認め経過から抗てんかん薬による易怒性、情動不安と診断した。その後抗てんかん薬をカルバマゼピンへ変更し、状態が安定したため退院となった。

この患者では年齢相応の認知機能低下はあったものの、おおむね機能は保たれていたが明らかな認知機能障害を持つ患者に同様の事が発生した場合には薬剤の副作用か認知機能障害の増悪によるものなのか判別に苦慮する可能性があり認知症の周辺症状と片付けられかねず、様々な病因を念頭に置いて診療を進めていくことが重要である。

【質問・意見】

質問：レベチラセタムの投与で同様の易怒性を示した患者を診た経験があるが、他の抗てんかん薬でも同様のことは起こり得るのか？

回答：古典的な抗てんかん薬でも同様の事は起こり得る。新規抗てんかん薬では、今回のようにレベチラセタムを原因とすることが多く報告されており、他にも今患者が内服していたペランパネルでも頻度は少ないながら易怒性を惹起するとの報告がある。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第63回デメンシアカンファレンス(Web)

比較的急激に易怒性、攻撃性を呈し 血管性の前頭型認知症が鑑別として 疑われた症例

2020年 8 月 3 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00

発表者 金沢医科大学 高齢医学 五十嵐 裕太
担 当 金沢医科大学
対 象 参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の拡大を踏まえ、
当面の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカン
ファレンスの開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。

教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、
認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運
営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメール
に従って会議にご参加下さい。

上記以外で参加を希望される方は7月31日までに氏名とメール
アドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営
事務局が確認します。

【お問い合わせ・参加申し込み先】

北陸認プロ運営事務局

〒 920-8640 金沢市宝町13番1号

TEL 076-265-2149 / FAX 076-234-4208

E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp / URL <http://ninpro.jp/>